

石川高専 だより

National Institute
of Technology (KOSEN),
Ishikawa College

No.108
2025/07



CONTENTS

- 01 令和7年度入学式
- 03 新入生の声
- 05 1年生合宿研修
- 07 学科・専攻科だより
- 10 学生相談室だより
- 11 令和6年度卒業証書・修了証書授与式
- 12 MESSAGES from 卒業生・修了生
- 14 令和6年度進路状況
- 15 令和6年度資格等試験合格者一覧／令和7年度学生役員
- 16 仮設体育館&テニスコート／
富田充宏先生を偲んで
- 17 国際交流だより
- 18 留学生だより
- 19 退職に寄せて／人事異動
- 20 新任教員紹介
- 21 DATA BOX 2025
- 22 行事予定／公開講座・こども石川高専
「創立60周年記念事業」募金

令和7年度 入学式

Welcome to KOSEN!
National Institute of Technology
Ishikawa College

令和7年4月4日、津幡町文化会館「シグナス」において令和7年度入学式を挙
行しました。

式では、富田校長から入学許可宣言が行われ、本科入学生 215 名を代表して電
気工学科の小松亨佳さん、専攻科入学生 24 名を代表して電子機械工学専攻の新
谷歩未さんが宣誓を行いました。

宣誓者からは、それぞれ「私達は、本校創立の精神にのっとり、学則及び諸規
則を守り、学生としての本分をまっとうすることを宣誓いたします。」と決意が
述べられました。

入学生達は、緊張と喜びに満ちた表情を見せながら、希望を胸に、新たな一歩
を踏み出しました。



校長告辞

今日の佳き日に、令和7年度の石川工業高等専門学校
入学式を挙行できますことは、私ども教職員および在校
生一同の大きな慶びであり、ご臨席の皆様方に対し、心か
ら御礼申し上げます。

本年度は、第1学年に入学する学生 211 名、第3学年に
編入学する留学生 3 名、第4学年に編入学する学生 1 名、
さらに専攻科に入学する学生 24 名、合わせて 239 名の新
入生を迎えることになりました。

新しく入学あるいは進学された皆さん、ご入学、おめ
でとう。皆さんを心から歓迎いたします。専攻科に進学
された方々を別にすれば、多くの皆さんにとって、高専
における生活は未知のものでしょうか。新しい生活に対す
る大きな夢と期待、そして少しの不安を胸に、そこに
座っておられることと思います。

本校は、昭和 40 年に国立の高専として石川県の中心に
位置する津幡町の東、高台の自然豊かなこの地に設立さ

れて以来、「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研
究開発型技術者育成のための高等教育機関」との基本理
念の下、約 9600 人の卒業生を輩出してきました。それらの
先輩方は国内外の様々な分野で活躍しています。



新入生の皆さんは、なぜ石川高専を選んだのでしょうか？数学や理科が得意な人、また、ロボットや車が好きな人もいるでしょう。他にも、橋や建築物に興味がある人、プログラミングやゲームの制作を志す人もいるかもしれません。理由はそれぞれ異なると思いますが、本校の専門性の高い教育実績に魅力を感じたのではないのでしょうか。

高専は、中学卒業という若い世代で入学し、本科の5年間で、高校から大学学部に対応する7年間の教育に匹敵する学びを提供します。大学に引けを取らない優秀な先生方が、皆さんをしっかり支え導いてくれるほか、同じ日に入学を迎えた多くの仲間が助け合い切磋琢磨できる環境が整っています。また、上級生たちも学業や課外活動を通じて模範となり、頼れる存在として後輩を助けてくれます。地元石川県の企業や自治体などの多くの方々も、皆さんの志と未来に期待して、実践や研究の場を提供したり、貴重な資金を支援したりと、皆さんの学びを後押ししてくれます。石川高専の充実した環境の下で、じっくりと自分の可能性を広げていってください。

さて、皆さんにひとつお願いがあります。現代社会は急速な変化と技術の進歩に直面しています。これからの時代を切り開く技術者となるためには、専門分野の学びを深めるのはもちろん、他の技術領域や歴史、文学、語学、スポーツ、アートなど、リベラルアーツの分野にも幅広く関心を持ち、多様な経験を積むことが重要です。新しい技術の例がAIですが、スマートフォンやパソコンにも生成AIの機能が搭載されるようになり、ノーベル賞にAI研究が選ばれるなど、その進展はますます加速しています。このスピードについていくのは容易ではありませんが、経済産業省が昨年度発表した報告書では、生成AI時代のDX推進に必要なスキルの一つとして、「経験を通じて培われる問いを立てる力や検証する力」が挙げられています。石川高専では、課外活動やコンテスト、海外での研修など、多彩な体験ができる機会が豊富に用意されています。皆さんには、学業に真剣に取り組むとともに、様々な

ことにチャレンジして、それぞれの未来を切り開くための確かな土台を築いてほしいと思います。

今年もタイ、モンゴル、カンボジアから3人の留学生を迎えることとなりました。言葉も文化も違う環境で勉強することは大変なことだと思いますが、多くの学友と交流し津幡の生活になじんで、思い切り日本の生活を楽しんでください。将来は、皆さんの国と日本の懸け橋になってくれることを希望いたします。

高等学校から第4学年に編入した学生は、これまで勉強してきたことをさらに高めるといふ強い目的意識を持っていることと思います。環境が変わって戸惑うことも多いかもしれませんが、新しい先生方や仲間と触れあい充実した学校生活を送ることを願っています。

専攻科に進学した24名の皆さん、皆さんは新しい挑戦を始める節目に立っています。これからの2年間は、本科で培った基礎をさらに深め、より高い専門性と広い視野を学び、将来、人間性豊かな新たなイノベーションを生み出す技術者として、グローバルに活躍できるよう、さらに自らを鍛えてください。

最後になりましたが、新入生の皆さん、どうか今日の感激を忘れないでください。その思いを胸に、一人一人の夢の実現のため、自分の可能性を信じて、高専生活を過ごしてください。

また、ご家族の皆様方に改めてお祝いを申し上げます。教職員一同、新入生の学校生活が実り多いものとなるよう全力を尽くして参る所存です。家庭と学校が連携し、学生たちの成長を心を込めて見守り、励まして参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日はまことにおめでとうございます。

令和7年4月4日

石川工業高等専門学校長 富田 大志



新入生の声



高専に入学して「ガンダム」になった

1M 藤田 一真

私のあだ名は「ガンダム」です。当然、某アニメに由来しています。私が「ガンダム」のことばかり話しているからつけられたようです。

さて、私が思う石川高専の良い点を紹介します。それは、校風が自由なことです。私にとって、自分の個性を出せるということ、その個性を受け止めてくれる仲間たちが多くいる点において、この自由な校風

は私が愛する「ガンダム」を共有するのに絶好なのです。お陰様でとても充実した日々を送れていますし、だからこそ、これからもっと皆の個性を知りたいです。

90分の授業は大変で、あれよあれよという間に置いて行かれそうになります。それでも、高専で学べる専門知識と個性ある仲間のおかげで、なんとか続けられています。

石川高専を選んだ理由

僕は、中学一年生の頃は商業に興味があり、商業高校に入りたいと思っていました。

しかし、商業について調べていくにつれ、ポイントカードやクレジットカードの仕組みについて興味を持ちました。また、小学生の時にプログラミングを少し学んでいたこともあり、自分も高度なプログラミングをしてみたいと思うようになりました。

1E 安井 藍斗

最終的に石川高専に行きたいと決定づけたのが紀友祭で4年生の作品を見たときでした。石川高専に入ればこんなにも凄い作品が作れるのかと衝撃を受けました。あの衝撃は今でも忘れません。高度な技術を学び、色々な人の記憶に残るような作品を作ることが今の目標となっています。



高専に入って

石川高専に入学し、初めて教室に足を踏み入れたとき、ほとんどの人が初対面で、これからの五年間がどうなるか不安でした。特に、入学初日に音ゲーに夢中になっている隣の人を見て驚きを通り越して恐怖を覚えました。アイスブレイクで四人一組になり、自己紹介をしていると、F君が桜を見ながら「この学校には花はあるけど、華が

1I 山田 悠人

ないなあ」と言ったことは一生忘れません。

初日は友達を作ることに不安がありましたが、時間が経つにつれてLINEグループができ、多くの友達ができました。クラスには音ゲーマーやアニオタが多いですがみんなやさしく、仲良くなりました。この環境こそ自分にとって運命的だと感じました。これからの五年間がとても楽しみです。

高専という進路選択について

僕が高専を選んだ理由は、大学より早い段階で自分が興味を持った専門科目を実践的に学ぶことが出来るということに魅力を感じたからです。

高専では、1年生から5年生までの長い間、専門科目を、博士課程を修了された教授、准教授の先生方に教わることができるので、確実に将来の仕事につながる学びを得ることができると考え高専を志望しまし

1C 佐藤 優ノ助

た。また、高専を卒業したあとも、就職だけでなく大学への編入や専攻科への進学もできると知り、「絶対に地球の環境改善やインフラ整備にまつわる仕事がしたい」と考えていた自分にとっては高専の環境都市工学科は夢のような進路でした。これからの5年間、同じ学科の仲間たちとともに楽しい高専生活を送って行きたいと思いま



石川高専に入学して

私は、1年生から専門的な分野について学べることに魅力を感じ、石川高専に入学しました。最初は、新しい環境でうまくやっ

1A 谷口 ゆずの

ていけるか不安でしたが、クラスの人とたくさん関わり、専門的な知識を学んでいくうちに、不安は楽しさに変わっていきました。専門の授業は、模型を作ったり、図面

専攻科での挑戦

電子情報工学科を卒業し、今年度から専攻科に進学しました。本科で培った基礎知識に加え、より高度な専門分野に取り組める環境に大きな魅力を感じています。特に私は、モーション生成などの分野に関心があり、創造工学演習や研究活動を通じて、実践的なスキルを磨きたいと考えていま

1EM 石木 翼央

す。また、異なるバックグラウンドを持つ学生と交流することで、多様な視点を学び、自身の考えを深める機会にもなると思います。専攻科の2年間で、技術力だけでなく、発表やコミュニケーションの能力も高め、将来、社会に貢献できる技術者を目指して努力していきたいです。



専攻科で頑張りたいこと

私は、建築学科を卒業し、専攻科に入学しました。専攻科では、本科で学んだことに加え、学科の融合により専門分野を幅広く学習できます。基盤学科の異なる学生と一緒に講義を受け、活動を共にすることで、新たな視点を学習し合えることも魅力であると思っています。このような環境で学ぶ経験を通して、様々なプロジェクトに対して多方面からアプローチできる技術者を目

1AC 廣瀬 希

指しています。

さらに、創造工学演習や授業内グループワークによる資料作成や学内外で発表する機会が多くあり、これらの機会を通じて、人に伝える技術や発表技術の向上にも努めていきたいです。

2年間の専攻科生活を有意義なものにし、社会や地域に貢献できる人になりたいです。



合宿研修



1日目 5月9日 金

- 8:50 対人関係研修
- 10:30 学生会・紀友祭実行委員会紹介
- 11:10 入所オリエンテーション
- 12:20 本校出発
- 13:10 国立能登青少年交流の家到着
- 13:30 野外活動 ディスクゴルフ、アーチェリー、
オリエンテーリング、いかだ体験
- 17:00 夕食・入浴・学科別ミーティング
- 22:30 消灯

2日目 5月10日 土

- 6:00 起床 (6:00~8:40清掃)
- 7:00 朝のつどい
- 7:40 朝食
- 8:40 宿舍点検
- 9:10 学生主事講話、校歌斉唱
- 10:30 退所式
- 10:45 国立能登青少年交流の家出発
- 11:30 本校到着





機械工学科 担任 川島 嘉美

4月にみなさんに伝えた「面白い /sense of wonder」という言葉を覚えていますか。世界は捉え方次第で輝き出します。視点を変えたり、少し工夫したりすることで、それまで見えなかったものが見えてくることがあります。他者との出会いを通して、自分とは異なる角度から世界を見る機会もあるでしょう。高専生活の中で出会う多様な「世界」が、みなさんの未来を切り拓く力となりますように。



電気工学科 担任 山崎 梓

ある著名な漫画家は、「普通であることに努め、それでもなおにじみ出るものが「個性」である」と言います。未熟な者にありがちな行動として、個性的であろうとして敢えて人と違うことをしたり、派手に着飾ることが挙げられますが、先の言葉を信じるならば、そんなことをしなくても、充分個性的であり得ます。これからの高専生活の中で、皆さんの個性は徐々に明らかになっていくことでしょう。それぞれの個性に出会えることを楽しみにしています。

環境都市工学科 担任 畔田 博文

人は誰しもが成長したいという欲求を持ち、成長への可能性を持っています。この欲求を大切にしつつ、可能性を実際のものとしていくためには自分を信じ行動していくことです。このために最も私が大切と考えるのは他者との比較ではなく、未来の自分をイメージしつつ、過去の自分と今の自分を比較し成長していることを実感していくことです。この1年間でどのようになっていきたいかを考え、時々立ち止まり自分がどのように変化したのかを考えてみてください。その積み重ねは5年間でもとても大きな成長と自信を作り出してくれるものと思います。

電子情報工学科 担任 稲積 泰宏

AIの進化により、学びと社会は密接につながっています。これからの時代、変化に挑み、柔軟に対応できる力が求められます。石川高専での学びは、その力を育む確かな土台です。私もここでの学びを活かすことで多くの挑戦を経験してきました。悩むことがあっても、一人で抱え込む必要はありません。仲間と支え合いながら成長し、未来へ進んでいきましょう。皆さんの挑戦を心から応援しています。

建築学科 担任 團野 光晴

フレッシュな新生生の皆さんをお迎えして、高専30年目の私も若返る思いです。元気出していきましょう。元気があれば何でも出来ます。いろいろなことにチャレンジして、自分の可能性を伸ばしましょう。そのことを思い切り楽しんで、高専生活を満喫しましょう。そして、世の中を明るく元気にするエンジニアをめざして下さい。世界は皆さんを待っています。ともに頑張りましょう！

学 科 ・ 専 攻 科 だ よ り

機 械 工 学 科

学 科 長 藤 岡 潤

今年度の機械工学科は、1年生42名、3年生にマレーシアからの留学生1名を新たに迎えました。1年生は早速、機械工学基礎や製図、機械工作法などで専門科目の勉強が始まっています。また機械工学科教員として本年度より小林裕介先生が着任し、メカトロニクスの授業や卒業研究などで学生の指導に加わっています。

● 進路状況

本年度の5年生は、就職22名、進学17名とやや就職を希望する学生が多い状況です。今年度も様々な企業から求人があり、その職種も設計開発から生産技術、サービスエンジニアまで多岐に渡っています。進学は専攻科の推薦入試を皮切りに、各大学での入試が始まりました。本校卒業生は座学や実験実習で身に付けた理論と実践をもとに、主体的に物事に取り組むことができる人材として、大学・企業から高く評価されています。学生の皆さんには、自分の選択に自信を持って高専生活を送り、希望の進路に進んでほしいと思います。

● 学生の生活

震災の影響は依然として残っていますが、授業や課外活動をはじめ、様々な学生行事が徐々に本来の姿を取り戻しつつあります。同学科会の新入生歓迎会も例年通り執り行われ、機械工学科の学生、教職員が一堂に会しました。また5月開催の機械工業見本市(MEX金沢)には2、4年生が参加し、企業ブースを訪問して積極的に質問をする姿が見られました。これから4年生はインターンシップに向けた活動を始めます。企業でのものづくりを経験し、エンジニアとして成長することを期待しています。5年生は進学・就職に取り組みながら、卒業研究に着手していきます。研究や進路活動を通じて広い視野を持った研究者・技術者を目指してほしいと思います。



MEX 金沢見学 (4M)

電 気 工 学 科

学 科 長 河 合 康 典

今年度の電気工学科は、42名の新入生を迎えました。1年生は、5月9日、10日に合宿研修を行いました。学科別ミーティングでは、金尾教員から進路、研究などの話があり、学生の質問する姿が見られました。2年生は、5月23日に第40回いしかわ情報システムフェア(e-messe kanazawa 2025)を、3年生は、5月16日に第61回機械工業見本市(MEX金沢2025)を、それぞれ見学し、企業の「ものづくり」に触れる良い機会となりました。5月15日の球技大会では、4年生がソフトボールで、5年生がダーツで優勝しました。5月26日には、電気工学科の新入生歓迎会(和魂会)が開催され、新入生の自己紹介のほか、2～5年生のクラス紹介があり、部活動などの課外活動についても説明がありました。

● 進路状況

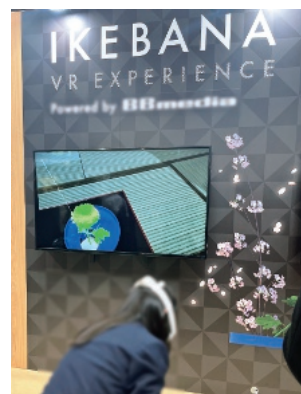
今年度の5年生は35名で、就職希望者が16名、進学希望者が19名となっており、進学希望者が就職希望者を上回りました。

就職については、今年度も電気業界に限らず、機械、建設、化学、医療など、様々な分野で電気系技術者の不足が深刻となっており、各業界から多くの求人をいただいています。今年度も夏季インターンシップが就職につながるケースがいくつかありました。

進学については、学力受験で有名な国立大学に挑戦する学生もいますが、多くの学生が推薦制度を利用しての編入学を希望しています。すでに、5名が本校専攻科の推薦入試に合格しています。全員が希望した大学に進学できることを願っています。



新入生歓迎会



e-messe kanazawa2025

電子情報工学科

学科長 小村 良太郎

今年度、電子情報工学科では43名の新1年生とモンゴルからの留学生1名を3年生に迎えスタートしました。5月9日(金)、10日(土)には、1年生の合宿研修が羽咋市の国立能登青少年交流の家で実施され、新入生が交流を深めるとともに、教員による電子情報工学科で学んでいく内容の説明などが行われました。また、5月23日(金)に3年生と4年生がe-messe kanazawa 2025を見学しました。就職した卒業生による説明もあり、社会におけるIT技術の活用を目の当たりにしていました。

電子情報棟は令和6年度に改修工事が行われ、3～5年生の教室が新しくなるとともに、演習室と実験室が1つの部屋となり「イノベーションラボ」として生まれ変わりました。黒板はホワイトボードに代わり、教室にチョークの粉が舞い上がることがなくなり、授業で使うノートPCなどの精密機器への配慮がなされました。イノベーションラボでは、情報、通信、電子の技術を組み合わせた学習が効果的に実施可能となりました。



イノベーションラボ

●進路状況

今年度の電子情報工学科5年生は39名です。そのうち20名が就職希望、19名が進学希望でそれぞれの進路に向けて活動しています。就職希望先としては、システム開発、組み込み、通信業界、自動車関連など多岐にわたっています。進学希望の学生のうち5名が本校専攻科の電子機械工学専攻に推薦で受験し、合格しています。

環境都市工学科

学科長 重松 宏明

4月には42名(男子27名、女子15名)の新入生を迎えました。ここ数年、女子学生が半分ほど占めていましたが、今年は若干減りました。先日の1年生合宿研修では、環境都市工学科から2名の教員が参加して新入生との交流を深めました。夜の学科別ミーティングでは、簡単な研究紹介をした後、「土木偉人かるた」



橋梁の点検実習(浦田橋、県道59号高松津幡線)



ゲームを行い、非常に盛り上がりました。1年生は毎年、環境都市工学基礎の授業で現場見学に行きます。学生たちに環境都市工学に関連する業務がどのようなものかを知ってもらう良い機会です。上級生になると、金沢港の浚渫工事、橋梁の上部工・下部工やトンネル工事、土質改良プラントなど、多くの現場見学に行きます。また、昨年の10月、5年生は維持管理工学の授業で橋梁の点検実習を行いました。場所は、かほく市にある浦田橋です。毎年、石川県津幡土木事務所、日本技術士会石川県支部との産官学連携で実施しています。

●進路状況

今年度の進路状況は、就職希望32名(民間企業26名、公務員6名)、進学希望5名(専攻科3名、大学2名)と、就職希望が例年より多いです。

就職については、県内企業は勿論のこと、県外からは大成建設や鹿島建設のような大手建設会社、ニュージェックやオリエンタルコンサルタンツのような大手コンサルタント会社、そして大阪ガスや東京ガス、東京水道、東京下水道サービス、北陸電力、中部電力、NEXCO中日本グループといったインフラ系の会社からの求人が大幅に増えています。5月中旬で22名の学生が既に民間企業から内々定を頂戴している状況です。

公務員志望者は猛勉強の末、6月初旬に実施された国家公務員採用試験(大卒程度)に臨みました。

進学については、専攻科推薦入試に合格した3名を除き、6月以降に実施される大学編入学試験に臨んでいます。

建築学科

学科長 村田 一也

建築学科は今年度42名の新入生を迎えました。学科学生は留学生1名を含む204名になります。

建築学科では、社会や地域の状況に鑑みながら、地域調査・現場見学や学外講師による講習会などを続けています。教育活動を実践に即して展開し、体験的なキャリア教育の一環としています。

●学生の活躍

ポラス「木造住宅インターハイ」において最優秀賞を、また奨励賞(2作品)を受賞しました。大学コンソーシアム石川「地域課題研究ゼミナール支援事業」において奨励賞を受賞しました。石川県デザイン展において、学生部門第1部(大学・短大・専門学校)で銅賞(2作品)を、学生部門第2部(高等学校)で、銀賞、銅賞、奨励賞(各1作品)を受賞しました。全国高専デザコン2024において、創造デザイン部門で優秀賞を受賞しました。

「歴史都市防災シンポジウム」において優秀発表賞を受賞しました。日本建築学会北陸支部大会において、若手優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。

国立高等専門学校機構「特色あるキャンパス環境の創出」事業の採択より、機械実習工場前中庭を整備する設計活動に取り組みました。「人と場所が成長する庭」をコンセプトに、中庭の改修を検討し、施設係、設計事務所、教職員ほか、学生らと検討を重ね、11月中旬から現場施工が始まり3月末には無事竣工しました。ここは、継続的に整備を続けながら、活用していくことになっています。

学生主体による同学科会(新入生歓迎会)が、今年度も建築学科全学生が集まり開催されました。



専門工学プラザの検討と竣工



同学科会の様子

●進路状況

昨年度卒業生の進路は、就職が19名、進学が17名となり、進学者のうち5名が本校専攻科に

在籍しています。本年度は、5年生40名のうち、22名が就職を、18名が進学を希望しています。

専攻科

専攻科長 山田 悟

本年度は、電子機械工学専攻に13名、環境建設工学専攻に11名の新入学生を迎え、専攻科全体の在籍者数は54名となりました。本校専攻科では、一昨年度にJABEE認定審査を、昨年度には特例の適用認定を受けた専攻科に対する教育実施状況の審査を受けました。いずれの審査も、専攻科の教育の質に対する重要な外部評価であり、特に大きな指摘もなく無事に終えることができたことに安堵しております。本校では、出身学科の垣根を越えて課題解決に取り組む「創造工学演習」や、約2か月間にわたる「長期インターンシップ」など、特色ある教育プログラムを展開しています。こうした取り組みがJABEE審査において高く評価されたことは、大変喜ばしく、専攻科の教育内容に対する自信にもつながっています。また、昨年度の長期インターンシップでは、受入企業のご協力のもと、インターンシップ期間中に海外での実習を行うという新たな取り組みも実施しました。今年度も引き続き、数名の学生が海外での実習に参加する予定であり、これにより専攻科の国際的な視野や実践力のさらなる向上が期待されます。

●進路状況

昨年度の専攻科卒業生の進路状況は、大学院進学が9名、就職が21名となりました。専攻科からの大学院進学については、各大学において専攻科修了者を対象とした優遇措置が設けられており、本科からの3年次編入と比較して、進学しやすい環境が整っている印象があります。本年度も、協定を結んでいる金沢大学大学院や福井大学大学院をはじめとした北陸地域の大学院への進学を希望する学生が複数名おり、大学との連携による進学制度が定着・一般化しつつあることを感じています。就職については、今年度も長期インターンシップでお世話になった企業にそのまま就職する学生が見られました。これは、インターンシップを通じて学生と企業との相互理解が深まり、適切なマッチングが図られた成果であると考えられます。

学生相談室だより

「ロボットを作ってみたい」「電気工作をやってみたい」「プログラムやゲームを作ってみたい」「橋ってどうやって作るんだろう?」「素敵なデザインの家を作ってみたい」——。あるいは、「部活動を頑張りたい」「紀友祭が楽しそう」「大学に編入したい」「就職率100%に魅かれた」など、人の数だけ石川高専に来た理由があると思います。そんな皆さんの夢が実現するように、先生たちや石川高専の職員は日々応援しています。もちろん、今はまだ夢が見つからないという人もいます。そのような方が夢を見つけられるように、私たちはそのお手伝いもしています。夢に向かう途中には、勉強や課外活動、友人関係、恋愛、家族、進路の悩みなど、さまざまな壁にぶつかることがあります。しかも、それらの多くには「明確な答え」がないかもしれません。一人で悩み続けていると、「もう頑張れない」と感じる瞬間が来ることもあります。もしかすると、今まさにその時かもしれません。この文章に目をとめて、きちんと読もうとしているあなた——その理由は何でしょうか?「相談してみたい」と思ったのかもしれませんが、「誰かに何かを伝えたい」と感じたのかもしれませんが。その気持ちを、ほんの少しだけでも、私たちに教えてもらえませんか?フランスの作家サン＝テグジュペリは『星の王子さま』の中で、「本当に大切なものは、目には見えない」と書きました。皆さんの心にある思いや願いもまた、目には見えないけれど、とても大切なものです。私たちにはそれが見えないからこそ、あなたの気持ちを聞かせてほしいのです。学生相談室は、「つらい」「疲れた」「泣きたい」「逃げたい」といった気持ちになったときに、心を整理し、落ち着ける場所です。そして、もう一度頑張るための元気を取り戻す場所でもあります。「ちょっと話をしてみようかな」と思ったら、ぜひ各学科の相談室員の先生や保健室を訪ねてみてください。先生や看護師さんが話を聞いたり、学外のカウンセラーにつなげてたりしてくれます。どんな小さな気持ちでも大丈夫です。あなたの心にある「たいせつなもの」を、私たちは大切に受けとめたいと思っています。



●令和7年度 相談室スタッフ

- ・学生相談室長：新保 泰輝（環境都市工学科）
- ・学生相談室員：山崎 梓（一般教育科） 穴田 賢二（機械工学科）
岡本 征晃（電気工学科） 嶋田 直樹（電子情報工学科）
高野 典礼（環境都市工学科） 小川 福嗣（建築学科）
- ・保健室：堀井 佳美 酒井 美有紀
- ・外部カウンセラー：西村 優紀美 高村 梓 深江 有理佳 喜多 大輔
- ・スクールソーシャルワーカー：山本 悠 梅原 智恵子

●カウンセラー来校日 月曜・水曜・金曜日

【時間】14:00～17:00

※相談がある人は保健室まで連絡してください。
保護者の方も利用できます。

【石川高専相談室の連絡先（保健室）】

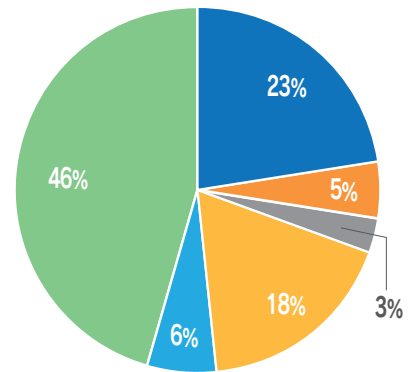
TEL:076-288-8037 Email:hoken@ishikawa-nct.ac.jp

※相談内容は厳守されます。



●令和6年度 相談内訳

年度によりバラツキもありますが、参考にしてください。



- 学業
- 進路・就職
- 家族関係
- 対人関係 (学校・いじめ)
- 精神衛生・心身の健康
- その他の相談

KOSEN ころとからだの学外相談室 ☺

予約不要

☎ 電話相談

利用時間：毎日 15:00～24:00

匿名での相談が可能です。



※電話相談は何度かけても無料です。※専門の医療機関の案内も可能です。※海外からはご利用いただけません。



0800-000-2228



通話料無料
スマートフォン・携帯電話
からも利用可能です。

利用可能期間：2025年4月1日～2028年3月31日 受付時間：毎日15:00～24:00

● 国立高専在学中の学生ご本人と保護者および教職員がサービスをご利用いただけます。 ● 卒業生および退職者の方はご利用いただけません。
※相談内容や氏名等の個人情報は個人情報保護法等の法令に定めのある場合を除き、第三者(学校を含む)に提供いたしません。

令和
六年度

卒業証書・修了証書授与式

令和7年3月19日、津幡町文化会館「シグナス」において令和6年度卒業式を挙行了しました。
本科生201名、専攻科生28名がご家族等を始め、在校生や教職員に見守られ、石川高専を巣立ちました。

告辞

今年の冬は例年に比べて雪が多かったですが、最近肌を刺すような冷たい外気も和らぎ、吹く風も春の訪れを感じるようになりました。今日、晴れて卒業式・修了式を迎えられる皆さん、まことにおめでとうございます。教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の皆さまも、さぞお喜びのことと思います。卒業生の皆さんに代わり、心から感謝しお祝いを申し上げたいと思います。

本日、本科卒業生201名、専攻科修了生28名が本校を巣立っていくことになりました。皆さんは、中学校卒業後、多くの同級生とは異なり、高等教育機関である本校に入学し、実践的かつ創造的な技術者への道を選びました。1年生からの専門教育、多くの実験・実習やインターンシップ、そして力試しの場でもある様々なコンテスト等は、新鮮な体験であるとともに、初めのうちは苦勞し、戸惑いもあったかもしれません。今日ここに卒業・修了を迎えられたということは、5年間、7年間で皆さんが大きく、そして遅く成長したと認められたことを意味します。

卒業生の中には、チュニジアからの留学生のモハメッドさん、マレーシアからの留学生のヨンシンさん、カンボジアからの留学生のリュクサさんがおります。故郷を離れ、異文化の中で言葉や環境の違いを乗り越え、勉強に励み、学業を全うされたことに心から賛辞を送ります。

振り返ってみると、本日卒業式を迎える皆さんの大半が入学された2020年4月は、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい始め、全国的に緊急事態宣言が発出された時期でした。入学式は新入生と教職員のみで行われ、本来なら同級生と共に教室で行われるはずの授業はオンライン配信に変更され、楽しみにしていた課外活動も休止となり、大半の時間を自宅などで籠って過ごすことを余儀なくされました。入学早々、全く先の見えない状況に、さぞかし孤独で不安な思いをされたことも多かったと思います。修了生の皆さんにとっては、3年間の集大成として臨むはずであった高校総体やコンテストなどが中止や遠隔開催となるなど、悔しい思いをされたことでしょう。

また、昨年1月には能登半島地震が発生し、やっと平常に戻った学生生活の最後の1年間が影響を受けるのではと心配された方も多いのではないのでしょうか。私が皆さんと共に過ごしたのは1年足らずでしたが、地震による不便や困難を傍らに置きつつ、目の前のことに真剣に取り組む皆さんの姿に感銘を受けました。1日目の悪天候にも動じることなく、最後までやり遂げた紀友祭のフィナーレの花火は、私にとっても何ものにも代えがたい思い出となっています。専攻科に進んだ皆さんが築き上げた伝統が、本科の学生に受け継がれていると感じています。

さて、皆さんは4月から新しい就職先や進学先へと進んでいきます。社会の変化は目まぐるしく、将来の見通しを立てるのはますます難しくなっています。科学技術の進歩のスピードも速く、AIやドローンは皆さんにとって身近な存在となっていますし、空飛ぶク



ルマや月面での生活など、空想の世界でしかなかったものが実現に向けて具体的に動き出しています。しかし、心配しすぎる必要はありません。皆さんが本校で学んだ基本的なもののづくり技術や専門性、そして基礎的な教養は、急速に変化する社会において最大の武器となるでしょう。

また、国際的な視野を広げることも重要です。私は以前、高専生に読んでほしいこの一冊として「深夜特急」を挙げました。作家の沢木耕太郎が若い時に香港からロンドンまで旅した時の記録で、私が世界に目を向ける一助となったものです。建築家の安藤忠雄氏は先日の新聞のインタビューで「鳥国日本に住む人間の一番の弱みは国際感覚の欠如です。」とおっしゃっています。安藤氏は、独学で建築を学び、今や世界的な建築家となった方ですが、若い頃に世界中の建築を見て回り、「世界の大きさと深さを意識した。」と語っています。本日、卒業及び修了される皆さんは、新型コロナの影響で海外研修なども制限された学年ですが、ぜひ世界を自分の目で見る機会を作り、グローバルな視野を育ててほしいと思います。

最後に一つお願いがあります。これからの人生において、様々な困難に直面し、心が折れそうになることもあるでしょう。そんな時に自分を癒す手段をもってください。それは、家族や友人とのおしゃべりでもいいですし、スポーツや趣味に打ち込むこと、大好きな芸能人のライブに行くこと、とにかく何もしないことなど、どんな方法でも構いません。自分に合った癒しの手段をいくつか持っていることは、心の余裕や他者への共感にもつながると思います。

本校は今年で創立60周年を迎えます。本校を卒業した約9400名の先輩方は、国内外の様々な分野で活躍しています。私が若い時に仕事のイロハを教えてもらった先輩も本校の卒業生です。皆さんには、本校の卒業生であることに自信と誇りを持ち、本校で体験し学んだことを活かし、それぞれの夢を持ち続けて活躍することを期待しています。

本日はまことにありがとうございます。

令和7年3月19日 石川工業高等専門学校長
富田 大志



Messages

from 卒業生・修了生

卒業生・修了生が学校生活を振り返っての思い出や頑張ったことなど、後輩たちへのメッセージを綴ってくれました。



卒業を迎えて

機械工学科 鹿道 渥



入学してからの5年間を振り返ってみるとあっという間に過ぎたと感じます。高専生活に期待を大きくして入学した1年生。しかし新型コロナウイルス感染症の流行により、授業は遠隔授業となりました。想像とはかけ離れた高専生活に気落ちしたのを覚えています。その後、始まった対面授業ではクラスメイトは皆どこか距離があったように感じました。しかし、球技大会では放課後まで残ってグラウンドでソフトボールの練習をしたり、紀友祭では露店、劇を成功させるために放課後までみんなで準備したりしました。そうした出来事で少しづつクラスの仲が深まり、今ではかけがえのない仲間になりました。

また、学外の活動にも参加する機会が増え、実際の社会や技術に触れることで自分の視野が広がり、将来の進路についても考えるようになりました。卒業後に自分がどのような道に進みたいのか、少しずつ明確に思い描けるようになった気がします。それも、仲間たちと切磋琢磨し合いながらの経験があったからこそだと思います。

5年生になり、これまでの出来事を仲間たちと振り返ることが増えました。楽しかったことや面白かったこと、時には一緒に先生に怒られたことも、今では全てが大切な思い出です。これらの経験を通じて、私たちは多くのことを学び、成長してきました。

後輩達にも、この貴重な5年間で多くの経験を積み、自己の成長に繋げてほしいと思います。新しい挑戦や出会いを通じて、自分の可能性を広げ、充実した日々を送ることを願っています。

石川高専で過ごした5年間

電気工学科 紙谷 柚希



コロナ禍に入学した私たちも、もう卒業です。入学式以降半年間の遠隔授業。今だからこそ言えますが、最初の3日ほどは制服を着てしっかりと授業を受けていましたが、それ以降はパジャマのまま友達と連絡しながら聞いていました。ある意味いい思い出です。対面授業に戻ってからは、徹底した感染対策が行われました。紀友祭や球技大会も満足にできたのは3～4年生頃です。5年生になる年には能登地震が発生し、高専も甚大な被害を受けました。テニスコートは崩れ、体育館等は使用禁止に。それでも私は胸を張って、「石川高専で、電気工学科で、有朋寮で過ごした5年間は最高だった!」と言えます。

球技大会ではバドミントンや卓球等で優勝など4度もベストクラスを獲得し、勉強の成績も5年間平均85点以上と、文武両道にバケモノだった5E。最高に楽しいクラスでした。ありがとうございました!

硬式テニス部。初心者でラケットに球を当てることすらできない状況で入部した私は、必死に練習し続け、試合で勝てるようになりました。この努力と結果は私の宝物です。就職してもテニスをずっと続けていきます!

後輩たちへ。困難や辛いことがあったとしても、自分がやりたいことを精一杯し続けてください。それが自分の武器になります。そして学生時代にしかできないこともたくさんしてください!

最後にこれまで支えてくださった先生方へ。5年間、本当にありがとうございました!

高専生活を振り返って

電子情報工学科 澤井 柚里



卒業の日が近づき、これまでの5年間を振り返ると、様々な思いがあったことを思い出します。最初は勉強についていけるかな?クラスの人々と仲良くできるかな?と不安に駆られていました。それからさらに、将来について、自分が本当にやりたいことは何なのか、どんな道に進むべきなのかと迷いながら過ごしていたと思います。

そんな私に大きな転機を与えてくれたのが、インターンシップでした。そこでは、社会人の方々や他の高専の学生と交流し、さまざまな意見を聞く機会がありました。わからないことを質問し、アドバイスを受けることで、新たな視点を獲得することができました。また、自ら行動する勇気が湧いてきました。そのおかげで私は自分のやりたいことを見つけ、将来に対して前向きに考えられるようになりました。

高専での生活は決して楽なものではありませんでしたが、振り返ると「充実した5年間だった」と胸を張って言えます。たくさんの学び、たくさんの挑戦、そして人との出会いが私を成長させてくれました。もし過去の自分に声をかけることができるなら、「その決断は正しかった」と伝えたいです。

在校生の皆さんには、是非興味を持ったことには迷わず挑戦して欲しいです。最初は不安でも、やってみることで新しい自分に会えるかもしれません。うまくいかなくても、恥をかいたとしても、その経験から得られる学びが必ずあるはずです。皆さんが自分の道を見つけ、充実した高専生活を送れることを願っています。

高専生活を振り返って

環境都市工学科 永原 珠実



高専の五年間、本当にあっという間でした。「五年間はすぐに過ぎるよ」と言われたけれど、実際にその立場になるなんて想像もしていませんでした。それでも、気づけば卒業を迎えることになりました。

コロナと共に入学した私たちの高専生活は、まさに新しいスタートでした。入学式を終えた後すぐに始まったオンライン授業。戸惑いの連続でしたが、オンライン昼食会や毎朝の検温報告など、今となっては貴重で面白い経験だったと感じています。イベントではなかなか表彰状をもらうことがなかったクラスでしたが、最後の紀友祭ではソトックソトックでマシッソヨ賞、ダンス部門で優勝することができました。ダンスの最後に撮った BeReal がすごく印象に残っています。寮で過ごした日々や友人とのくだらない会話、研究室の仲間たち、クラスメイトとの何気ない時間。思い返すと、授業の時間さえも愛おしく、かけがえのないものでした。進路に悩んでいたときには、多くの友達や先生に相談に乗ってもらい、励まされました。この五年間で出会った大切な仲間や尊敬する先生方、そしてたくさんの人と関わり、話せたことは、私にとって宝物です。これまで支えてくれたすべての先生方、友達、そして家族に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

在校生の皆さんへ。いろんなことに挑戦し、たくさんの人と話し、当たり前のような日常でも写真を撮って、何気ない瞬間を大切に過ごしていってください。高専生活、悔いのないように全力で素晴らしい思い出を作り上げてください。

高専生活を振り返って

建築学科 中山 美月



入学した当初は長いと感じていた5年間も、今振り返るとあっという間に過ぎていったように感じます。

たくさんの思い出がある中で一番最初に思い浮かぶのは、紀友祭実行委員会として活動した日々です。特に、総務課長を務めた1年間は今後忘れることのない大切な時間となりました。仕事を投げ出したときや辛いときもありましたが、それ以上に楽しいことがたくさんありました。今まで関わったことのない他学科、他学年の人たちと仲良くなることができ、とても充実した日々を過ごすことができました。59thのみんなありがとう。1年間一緒に活動できて本当に幸せでした。

部活の時間では、練習も試合中も楽しんで活動することができて、バスケがもっと大好きになりました。女バスみんなでご飯を食べに行ったのも良い思い出です。また行こうね。

5年間一緒に過ごしたクラスのみんなにはたくさんの感謝があります。必死に課題を終わらせたり、一緒にお昼ご飯を食べたり、些細なことですと笑ったり。高専生活を楽しみ過ごすことができたのはみんなの存在がとても大きかったと感じます。みんなと同じクラスで本当によかったです。ありがとう。

最後に在校生のみなさん、残り的高専生活ではどんなことにも後悔のないように取り組んで、周りの環境を大切に、楽しく過ごしてください。この5年間は私にとって宝物のような日々でした。みんなに出会えて本当に幸せです。

修了を迎えて

電子機械工学専攻 山名 巧真



高専に入学してから7年が経ち、ついに専攻科を修了する日を迎えました。本科での基礎知識の習得に加え、専攻科ではより高度な専門知識と実践経験を積むことができました。特に研究活動や長期インターンシップを通じて、技術的なスキルだけでなく、問題解決能力や自主的に学ぶ姿勢を養えたことは、大きな財産となりました。専攻科の2年間では、異なる分野の学生と協力して課題に取り組む授業が印象的でした。チームワークの大切さを学び、実際の企業での長期インターンシップでは、学んだ知識の実践的な活用方法を身をもって体験しました。この7年間で様々なことを経験し、とても濃く充実した日々を送ることができました。7年前の自分とは比べ物にならないくらい成長できたと感じています。これからは、ここで得た知識と経験を活かし、社会人として挑戦していきたいと思っています。技術の進歩が速い現代において、常に学び続ける姿勢を持ち、自分の可能性を広げていきたいと考えています。

在校生の皆さんには、自分のやりたい事を全力でやり切ってほしいと思います。学生という限られた期間ですが、思い残すことのない充実した日々を送っていただきたいです。

最後に、支えてくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今からが本番

環境建設工学専攻 東 雄紀



高専での7年間を振り返ると、多くの経験と成長がありました。入学当初は新しい環境に期待と不安が入り混じっていましたが、今ではその選択が正しかったと実感しています。

まず、本科の5年間は、学業と部活動、そして仲間との時間が中心でした。課題や試験に追われる日々の中で、仲間と励まし合いながら乗り越えてきました。特に、サッカー部での活動は大きな経験でした。部長としてチームをまとめる立場になり、責任の重さや悩みを抱えることもありました。仲間とともに努力を重ね、昇格戦で勝利をつかんだ瞬間の喜びは今でも忘れられません。

専攻科では、より専門的な学びに挑戦しました。本科時代とは異なり、実践的で応用的な内容が求められる授業や研究が増えました。また、他学科の仲間とともに学ぶことで、多様な視点を持つことができたのも大きな成長でした。意見の対立はなく、お互いの知識を持ち寄りながら、協力して学びを深めることができたのは、専攻科ならではの経験だったと思います。

そして、この7年間で、私は多くのことを学びました。困難に直面したときに、粘り強く取り組む力。仲間とともに支え合いながら成長することの大切さ。そして、技術を学ぶだけでなく、それを社会にどう活かしていくかを考える視点。これらすべてが、高専での経験を通じて身についたものです。

また、4月からはゼネコンに就職し、新たな環境での挑戦が始まります。ゼネコンとは、ゼネラルコントラクター（General Contractor）の略称で、総合建設業者のことを指します。ビルやマンション、道路、ダムなど規模の大きな建設工事、土木工事の発注を受けて、協力会社とともに作り上げるのがゼネコンの役割です。高専で培った技術や知識、そして困難を乗り越える力を活かし、社会に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

最後に、この7年間を支えてくださった先生方、そして、ともに学んできたクラスメイトに心から感謝します。どんなときも助け合い、共に学び、成長できたことは、何よりの財産です。高専で過ごした7年間は、決して平坦な道ではありませんでした。しかし、そのすべてが、今の自分を作り上げています。そして、この先どんな困難が待っていようと、この7年間で得た経験を糧に、前へ進んでいきます。

この場所で学び、成長できたことを誇りに思います。7年間、本当にありがとうございました。

令和6年度進路状況

● 就職・進学状況

区分 \ 学科等	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	専攻科	計
卒業・修了者数	40	42	39	42	38	28	229
就職者数	20	22	22	32	18	19	133
進学者数	20	20	17	10	17	9	93
その他	0	0	0	0	3	0	3
求人企業数	766	798	679	585	538	2472	5838
求人倍率	38.3	36.3	30.9	18.3	29.9	130.1	43.9

● 地域別就職状況

区分 \ 学科等	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	専攻科	計
石川	3	6	2	5	2	5	23
富山		3	2	1	1		7
関東	13	5	16	21	13	11	79
東海		1	1	4			6
近畿	3	7	1	1	2	3	17
福岡	1						1
計	20	22	22	32	18	19	133

● 産業別就職状況

区分 \ 学科等	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	専攻科	計
建設	2	2	2	16	14	5	41
製造業	食品・たばこ	1	1				2
	金属製品・鉄鋼・非鉄		1		1		2
	一般機械	6	4			3	13
	電気機器	2	2			1	5
	電子機器	2	2	1		1	6
	輸送用機器	1	1				2
化学・繊維	1		1			2	
運輸・通信・情報	3	3	15	3	1	7	32
電気・ガス・水道	1	4	1	8			14
卸売業・小売業		1					1
不動産業					1		1
派遣業・サービス業	1	1	2				4
公務員・教育学習支援				5	1	2	8
計	20	22	22	32	18	19	133



令和6年度 資格等試験合格者一覧



(学年は合格時、公表承諾者のみ掲載)

第三种電気主任技術者試験

5 E 村上(優)

第二种電気工事士試験

3 E 岩崎 岩田 老子 川田 菊田 気谷 木村 清原
久志井 久保 藏田 小酒 四十坊 清水 神保
高本 橋本 長谷川 花木 本田 前田 三口
村上 森 矢野 山田 吉田(匠) 吉田(琳)

4 E 岩尾 香林 平山 前口 武藤 山崎

5 E 木谷 松浦 松本

危険物取扱者試験 乙種全類

3 E 中田

危険物取扱者試験 乙種第4類

3 E 中田

4 E 山口 山崎

5 E 小山 松浦

基本情報技術者試験

2 I 徳重 濱田

3 I 後谷 田中 徳山 内藤 毛利川 安田

ITパスポート試験

3 E 気谷

2 I 河村

3 I 徳山

技術士第一次試験(建設部門)

4 C 神林 村田

2級土木施工管理技術検定(第一次検定)

3 C 浅賀 葭田 大橋 大割 岡田 沖谷 川原 北村
喜多村 佐野 庄田 須賀 清造 高口 辰野 谷口
谷村 辻 土手下 長永 長島 中田(匠) 中田(実)
中村 野澤 延田 橋本 長谷田 林 松本 南山
宮川 宮崎 山田 山本 吉田

4 C 北出 田中 野村 村田 山下

2級建築施工管理技術検定 第一次検定(2級建築施工管理技士補)

3 A 清丸 津田 出村 野崎

4 A 早瀬 二宮 森 諸橋 門田 山口 山崎

建築CAD検定試験2級

4 A 鋤柄 山戸 山森 森

カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス

1 A 瀬川 細野



令和7年度 学生役員



学生会

会 長 4 E 老子
副会長 3 I 太田(和)
3 I 境
3 I 津田(妃)
監 事 4 M 下西
2 I 鳥巢
会 計 2 M 水上
2 E 宮川

寮生会

総 代 3 A 川島
副総代 4 C 山田
海寮長 4 C 山田
山寮長 3 A 小関
中寮長 3 A 西野
宙寮長 4 E 掃部
会 計 3 I 山本
2 A 有山
広 報 4 C 山田
2 A 福田
2 E 田淵

第60回紀友祭実行委員会

委員長 5 A 棚田



仮設体育館建設及びテニスコート改修の進捗状況について

令和6年能登半島地震により、4面あったオムニコート（砂入り人工芝テニスコート）が被災し使用できなくなったため、部活動を校外で行うなど学生生活に影響が生じていましたが、既存のクレーコート2面をオムニコートに改修を行い、5月下旬より使用を開始しました。



改修後



改修前

同じく地震により、2つあった体育館が被災し使用できなくなったため、2つの体育館に代わる総合体育館の建設に着手しました。令和8年度中の完成を予定しています。また、総合体育館完成までの期間、授業や屋内競技に使用することを目的に仮設体育館を建設し、6月下旬に完成しました。仮設体育館は、バスケットボールコート2面分の広さがあり、既設体育館1棟のアリーナと同程度の規模です。



外観



アリーナ



富田充宏先生を偲んで

令和7年2月18日、富田充宏先生が急逝されました。前日まで学校にてお元気に仕事をされておられたので、訃報の連絡を受けた時は教職員一同大変驚きました。富田先生は平成元年4月に本校に土木工学科教員として着任されました。専門は構造工学で、衝撃荷重を受けるコンクリート構造物の数値解析でした。授業は構造力学を担当され、演習を中心としたわかりやすい授業で学生の評判は大変良く、多くの学生に慕われました。先生の指導を求めて卒研究生や専攻科生が殺到していました。先生は学校の複雑なカリキュラムに基づく時間割を正確に組み上げる天才でした。部活動ではサッカー部顧問をされ学生指導だけでなく、自ら審判資格を取って石川県サッカー協会にも貢献をされました。最近では副校長として本校の災害復旧の中心を担われました。このような先生が亡くなったことは、本校にとって大きな損失であり、学生、卒業生、教職員にとっては深い悲しみです。富田先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



令和5年度卒業式後に挨拶をされる富田先生

国際交流だより

副校長（地域・国際連携担当） 津田 誠

新型コロナウイルスの影響により中止になっていた本科4年生で実施していた海外研修旅行が昨年度から全5学科にて再開されました。今年度はすべての学科が台湾で海外指定校と交流プログラム等を行う予定です。また、令和5年度から「トビタテ留学 JAPAN」の募集が再開され、また、その他の海外留学や研修プログラムに参加希望する学生が増え、将来グローバルに活躍することを目指し、海外へ向けての活動が活発化しております。

加えて昨年度から本校専攻科1年生向けの海外インターンシップ・プログラムが実施されました。この取り組みは本校の支援企業団体「技術振興交流会」の会員企業により、本校教職員とともに、プログラムを作成していただき実施しているものになっております。昨年は5企業で専攻科1年生7名の学生が参加し、今年も引き続き3企業で3名の学生が海外インターンシップに向けて、準備を開始しております。

今回は、本校の国際化に向けての強化として、今年度から校長補佐（国際連携担当）に着任された大橋慶介先生に、今後の取り組みや昨年度末、高専機構グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの最終報告会としてフィンランドに出張された状況について、ご報告をお願いいたしました。



シンガポールで海外インターンシップを行う専攻科生

グローバル・アントレプレナーシップ・プログラム 2024（フィンランド）報告



ヘルシンキ空港到着

2025年3月1日（土）～9日（日）、高専機構主催のグローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの交流・最終報告会がフィンランドで実施されました。このプログラムは、フィンランドのトゥルク応用科学大学（TUAS）、メトロポリア応用科学大学と協働で実施されるもので、全国の国立高専から学生10名が選抜され、石川高専から学生1名が参加しました。プログラムは1年間を通して複数の課題が与えられ、国内でのグローバル・キャンプ、オンライン講義（TUAS）、ピッチイベントへの参加など多岐にわたり、それを通じて英語だけでなく国際感覚が自然と鍛えられる内容になっています。

「アントレプレナーシップ」は、日本語で「起業家精神」と訳されて、GAFに代表されるアメリカのテック企業の話と絡めて用いられることが多く、最近耳にするようになった言葉という印象を持ちます。しかし、フィンランドでは、1994年の学習指導要領で登場し、すでに30年の歴史あるカリキュラムです。

プログラムでは、学生達がフィンランドでのビジネスモデルを提示し、それに対してフィンランドの大学生が意見・議論する形で、ビジネスプランを構築していく形をとります。このプロセスから、英語力は勿論のこと、異文化理解やサステナビリティなど今日のビジネスに欠かせない要素を体得していきました。

実際、参加学生アンケートによるとプログラムで身についたスキルとして、1位・異文化理解、2位・積極性、同じく2位コミュニケーション力と続きます。興味深い変化としては、モチベーションが上がった科目として、1位・英語とほぼ同数で、2位・専門科目が挙げられている点です。これはグローバルで求められているものは、コミュニケーションの先にある専門性であり、高専で学んでいるエンジニアリングであることに気づいたのだと思います。

フィンランドの人口は日本の5%足らずの550万人ですが、国民ひとりあたりGDPは1.6倍あります。大国に囲まれている地政学的な理由もあると思いますが、「生き抜く力」を得るアントレプレナーシップを学ぶには絶好の教材であると感じました。

石川高専では、国際的プログラムへ積極的に学生を派遣し、将来のグローバル・エンジニアをひとりでも多く育てるよう応援していきます。このプログラムに限らず、国際交流に参加した学生は例外なく、ひと回りもふた回りも大きくなります。つまり、そのリターンはとても大きいと言えます。自身の素晴らしい将来性に、勇気と努力を投資することを、学生の皆さんには強くお勧めします。

校長補佐（国際連携担当） 大橋 慶介



石川高専生によるプレゼンテーション



プログラム参加学生による記念撮影

留学生だより

石川高専には10名の留学生在籍していて、全員が学生寮に住んでいます。出身国別では、マレーシア3名、モンゴル2名、カンボジア2名、タイ2名、マリ1名、となっています。このうち、令和7年4月に新しく編入学した3名の留学生について、アンケートの内容と合わせて紹介したいと思います。

アンケート項目

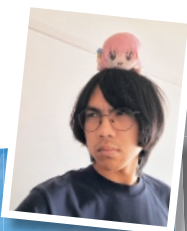
- 1 出身国と都市名を教えてください。
- 2 日本に留学したいと思った理由を教えてください。
- 3 日本の印象を教えてください。
- 4好きなことや趣味、特技を教えてください。
- 5 石川高専に留学してみた感想を教えてください。
- 6 留学しようと考えている石川高専の学生へ、アドバイスをお願いします。

3年 機械工学科

LIMJUMROONRAT CHANON (アーム)

- 1 タイ・ナコンサワン
- 2 元々私は日本の車が大好きなので、日本の環境も良い。それで、日本へ行ってみたいと思いました。
- 3 日本の自然は本当にとてもきれいです。
- 4 音楽を聴いたり、絵を描いたりすることが好きです。
- 5 私は日本語があまり得意ではないがわからないことがあったら、皆が優しく助けてくれます。
- 6 新しい環境で勉強するのは確かに大変かもしれませんが頑張れば大丈夫です！

サワン・パーク



3年 電子情報工学科

SANJAASUREN SAINZAYA (サイナー)

- 1 モンゴル・ウランバートル
- 2 日本の先進的な技術や教育に興味があり、実際にその環境で学びたいと思ったからです。
- 3 日本はとても安全で、街がきれいです。
- 4 興味を持ったことについてインターネットで調べて読むのが好きです。
- 5 授業内容が実践的で面白く、先生や学生もとても親切なので、とても良い経験ができています。
- 6 積極的に学ぶことで、確実にスキルが身につきます。

チンギス・ハーン騎馬像



3年 環境都市工学科

SIN VISAL (ウィサル)

- 1 出身国はカンボジアです。都市名はシェムリアップです。
- 2 日本に留学したいと思った理由の一つは私の子供の頃の夢であったからです。もう一つの理由は日本の質の高い教育に魅力を感じたからです。
- 3 日本は美しくて清潔な国だと思います。特に、日本人は優しくよく助けてくれると思います。
- 4 新しいことを発見できるので、旅行が好きです。昔はサッカーをするのが趣味でしたが、最近はアニメを見るのが趣味です。
- 5 木や緑が多くあって勉強するのにいい環境だと思います。授業の内容もわかりやすいし、先生と学生も優しいです。寮もキレイです。
- 6 留学は自分を成長させ、世界を知る素晴らしいチャンスです。新しいことに挑戦することを恐れなくてください。



アンコールワット



石川高専での思い出

機械工学科 石田 博明



昭和59年4月に石川高専の機械工学科に着任し、それから昭和・平成・令和の41年間にわたり本校にお世話になり、令和7年3月に定年退職を迎えることになりました。

着任当初は機械工学科・電気工学科・土木工学科・建築学科の4学科の体制でしたが、昭和62年の電子情報工学科の設置、平成6年の環境都市工学科の改組、平成12年の専攻科の設置があり、本科5学科・専攻科2専攻の体制に移り変わってきました。この間、授業では機械工学科や他学科の学生を対象に応用物理をはじめとする科目を担当し、数多くの卒業生を送り出してきました。多くの学生が苦手とする物理学に如何に興味を持ってもらえるか試行錯誤を繰り返しながら、授業や実験を行ってきました。

一方、課外活動では、かつて存在した自動車部の学生を中心に取り組んだ、ソーラーカーラリー in 能登の大会で、太陽光パネル可変型の車体の製作の難しさ、大会レギュレーション内での最大効率制御回路の設計・製作、コース内のなぎさドライブウェイ（砂地）での走行対策の苦労など、大会結果は残せませんでした。当時の機械設計や流体工学および電気電子工学の勉強や経験は現在でも非常に役立っていると思います。また、ソフトテニス部の顧問の経験の中では、当時の石川高専では少なかった石川県連への加盟や、高専全体の高体連へ加盟、全国高専体育大会の担当校、卒業生のOB会など、思い出は尽きません。さらに、ロボット研究部関係では、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）の大会直前まで、機械実習工場で遅くまで製作・調整を繰り返していたり、大会前日のテスト走行で問題の発生した制御回路を現地で半田ごて片手に修正した苦い経験も、今となってはいい思い出です。

さらには、公開講座や出前授業では、中学生や小学生への教育の難しさや楽しさを知ることができ、また金沢市技術開発ゼミナールでは、社会人向け現場で即応できる技術教育の厳しさを学ぶことができ、これらの経験を通して深い達成感を覚えたことが思い起こされます。

最後になりますが、石川高専の益々の発展、これまでお世話になった教職員、在校生や卒業生の皆様のご健勝を祈念いたします。長きにわたり、ありがとうございました。

●人事異動

■令和7年3月31日付け

定年退職 松島 敏夫 一般教育科教授
石田 博明 機械工学科教授



■令和7年4月1日付け

採用 服部 峰大 一般教育科講師
藤谷 雄平 一般教育科講師
横林 修造 建築学科准教授

配置換
(転入) 小林 裕介 機械工学科准教授
大和 裕也 建築学科准教授

昇任 MOANANU Charlton Bill 一般教育科教授
古崎 広志 一般教育科教授
任田 崇吾 電子情報工学科准教授
前田 健児 環境都市工学科准教授

再雇用 松島 敏夫 一般教育科嘱託教授
石田 博明 機械工学科嘱託教授

多様な見方に触れよう

服部 峰大 (はっとり たかひろ)

石川高専の皆様はじめまして。本年度より一般教育科の国語担当として着任いたしました服部峰大です。出身は大阪で石川高専に赴任するまでずっと関西にいたバリバリの関西人です。一昨年は奈良教育大学で特任講師として鹿と戯れ、昨年は川端康成が幼少期を過ごした家の近くにある高校で教鞭をとっていました。

私は童話、詩などで知られる宮沢賢治という作家を研究しており、中でも作家や作品がどのように扱われてきたのかを研究する受容史と呼ばれる分野を専門としております。皆さんは、自分が当たり前だと思ってきた価値観が意外にも最近出来上がったものであったという経験はないでしょうか。物の見方がどのように変遷してきたのかを学ぶことは、ある事柄が唯一絶対ではないことを明らかにします。ぜひ皆さんも国語の授業を通じて多様なものの見方に触れてください。

と、偉そうなことを書きましたが、様々なことに縛られるのが人間で、私もまだまだ未熟者です。ぜひこの石川高専で皆さんと一緒に学ばせてください。



Profile

所属：一般教育科
職名：講師
専門分野：日本近代文学
学位：博士（文学）
趣味：ランニング、読書（研究書からSF、エッセイなど何でも読みます）、模型製作

「石川&教員1年目」

藤谷 雄平 (ふじたに ゆうへい)

はじめまして。一般教育科に着任しました藤谷雄平です。昨年度までは、鹿児島県の鹿屋体育大学大学院に在籍し、学生として学ぶ傍ら、特任研究員としても勤務していました。これまでの30年間、埼玉や東京、鹿児島島の太平洋側で暮らしてきましたが、初めて日本海側で生活することになります。石川県の冬の寒さや雪には不安もありますが、体育教員らしく(?)気合いと根性で乗り越えたいと思っています。

私が担当する科目は保健体育です。優秀な技術者になるためには、専門分野の知識やスキルを修得するだけでなく、心身の健康を良好に保つことが欠かせません。私は、保健体育の授業を通じて、運動が心身にたらすプラスの影響を伝え、運動やスポーツの楽しさを実感してもらいながら、生涯にわたって運動を継続する習慣が身につくよう指導していきたいと考えています。

教員1年目で未熟な点もありますが、学生の皆さんの成長に貢献できるよう全力を尽くすとともに、私自身も日々学び、成長してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



Profile

所属：一般教育科
職名：講師
専門分野：スポーツを通じた開発、スポーツ人類学
学位：博士（体育学）
趣味：ゴルフ、ぼーっとすること

だれかを助けるものづくり

小林 裕介 (こばやし ゆうすけ)

石川高専を卒業して26年、今度は教員として石川高専で過ごすこととなりました。現在、ロボット技術やメカトロ技術を活用しているいろいろな作業の自動化、また障害などで困っている方の生活を支援する機器の開発を研究しています。ともに、だれかの作業や生活をサポートする研究ですが、この研究分野に進む最初のきっかけは石川高専での卒業研究でした。当時はおもしろそう、という理由だけで卒研テーマを選びましたが、そのまま仕事に結びつくとは思いませんでした。

高専で学ぶものづくりは大変かもしれませんが、楽しいところもあるかと思えます。私自身、高専や大学でのものづくり経験がきっかけで家電を自分で修理したり、ゲーム機を改造したりと楽しく活用する機会がありました。パソコンが遅くて困っているという友人のために、みんなでタイヤとモーターをつけて爆速で走るパソコンに仕上げたこともありました。みなさんも「高専だから」できたこと、学べたことをぜひ自分の楽しみに活用し、楽しい高専生活を送ってください。



Profile

所属：機械工学科
職名：准教授
学位：博士（工学）
専門分野：メカトロニクス、福祉機器、自動化
趣味：ゲーム、おかし作りが好きです。和菓子洋菓子問わず作ってきましたが、なぜか定期的なうらろろを作りたくなる周期がきます。

着任にあたって

横林 修造 (よこばやし しゅうぞう)

昨年度3月31日に兵庫県産業労働部を退職し、今年度4月1日付けで建築学科の准教授に着任致しました横林修造です。これまでと違った環境の中で戸惑うことも多いですが、歴史と伝統ある石川工業高等専門学校の実績を汚さないよう、学校の教育、研究の発展に努めていきたいと考えております。

前職の兵庫県では監督職として主に訓練校の運営や指導員の方々の育成にかかわってまいりました。住み慣れた兵庫県を離れ、石川県で単身勤務する毎日は刺激の連続ですが、あらゆる刺激も楽しみながら前向きに過ごしていければと感じております。

皆様と共に学生達の春の始まりを間近で見守れることが非常に嬉しく、身の引き締まる思いで一杯です。学生達が新しい学校生活や進路選択に期待と不安を抱いている今こそ、学生達に寄り添い、将来を見据えながら、全力で応援出来ればと思っております。

甚だ微力ではございますが、学生達や職員、教員の皆様のご期待に沿えるよう、職務に尽くしていく所存です。皆様からの叱咤激励を含め、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。



Profile

所属：建築学科
職名：准教授
学位：博士（工学）
趣味：6年前から始めた少林寺拳法（初段）です。個人戦では市民大会で入賞した経験があります。

学生と一緒に学びたい

大和 裕也 (やまと ゆうや)

令和7年4月から建築学科に配属になりました大和裕也です。皆さんこれからよろしくお願い致します。専門は都市計画・建築計画です。研究活動は防災まちづくりの分野に積極的に取り組んでいます。教育の現場では、学生の好奇心を引き出し、主体的な学びを促進することを心がけており、実践的なスキルを身につけることができる授業を提供するよう努力していきます。これまでの研究活動の経験や市役所職員の経験をあわせ、石川県の計画的課題を検討し解決したいと考えています。今後は産官学連携の観点から自治体や学校と連携しながら研究を進めていきたいと考えています。学生たちと共に学びながら、誠心誠意取り組んでまいります。

今年度は建築学科3年生の担任をしていますが、学生の皆さんはいつも元気で自分が教室にいくと明るく声をかけてくれます。欠席が少ないことも素晴らしいです。担任は2回目でもまだ慣れないことも多く学生の皆さんから教わることもたくさんあります。10月には合宿研修もあり、学生と一緒にたくさんのことを学んでいきたいと思っています。



Profile

所属：建築学科
職名：准教授
専門分野：防災まちづくり
学位：博士（工学）
趣味：家族と過ごす時間
10歳の女の子、8歳の女の子、6歳の男の子の3人の子供がいます。休日に外出し一緒に遊び、食事などすることによりいろいろな体験をすることが趣味です。

DATA BOX 2025

役職員名簿

役職員

校長	富田 大志
副校長(管理運営担当)	道地 慶子
副校長(地域・国際連携担当)	津田 誠
副校長(教務担当)※教務主事	義岡 秀晃
副校長(学生担当)※学生主事	北田 耕司
副校長(寮務担当)※寮務主事	岩竹 淳
校長補佐(図書・情報担当)	長岡 健一
校長補佐(専攻科担当)※専攻科長	山田 悟
校長補佐(入試広報担当)	徳井 直樹
校長補佐(国際連携担当)	大橋 慶介
校長補佐(点検評価担当)	山田 健二
校長補佐(KIS/JABEE 担当)	船戸 慶輔

電子機械工学専攻主任	岡本 征晃
環境建設工学専攻主任	森原 崇
情報戦略基盤センター長	川除 佳和
情報戦略基盤センター次長	松本 剛史、稲積 泰宏
トライアル研究センター長	堀 純也
トライアル研究センター次長	越野 亮、大橋 慶介
技術教育支援センター長	道地 慶子
学生相談室長	新保 泰輝
図書館長	長岡 健一

学科(科)長

一般教育科長	森田 健二
機械工学科長	藤岡 潤
電気工学科長	河合 康典

電子情報工学科長	小村良太郎
環境都市工学科長	重松 宏明
建築学科長	村田 一也

学級担任

	1年	2年	3年	4年	5年	留学生指導教員
機械工学科	○川畠 嘉美	モナナチャルトンビル	長谷川雅人	○池田 生馬	寺本 裕志	3年：倉部洋平、長谷川雅人 4年：池田生馬、穴田賢二 5年：寺本裕志、藤岡潤
電気工学科	山崎 梓	服部 峰大	仲林 裕司	上町 俊幸	矢吹 明紀	5年：上町俊幸、河合康典
電子情報工学科	稲積 泰宏	古崎 広志	○三吉 建尊	任田 崇吾	松本 剛史	3年：三吉建尊、小村良太郎 4年：任田崇吾、小村良太郎 5年：松本剛史、小村良太郎
環境都市工学科	畔田 博文	佐々木香織	高野 典礼	前田 健児	○寺山 一輝	3年：高野典礼、大橋慶介 5年：寺山一輝、重松宏明
建築学科	團野 光晴	○富山 正人	大和 裕也	秦 明日香	恩村 定幸	4年：秦明日香、村田一也

○印は学年主任

課外活動指導教員名簿

運動部

サッカー	*松本 剛史 河合 秀泰	金尾 奨	ホアンキムオアン
バスケットボール	山田 健二 池田 生馬 *寺山 一輝	*岡本 征晃 横林 修造 熊澤 栄二	田中 文章 山田 悟 モナナチャルトンビル
野球	*北田 耕司 穴田 賢二	*川除 佳和 寺本 裕志	徳井 直樹 藤谷 雄平
卓球	任田 崇吾	藤岡 潤	山崎 梓
柔道	*吉江 佑介	新保 泰輝	
ソフトテニス	*畔田 博文 森原 崇 小川 福嗣	前田 健児	越野 亮 堀 純也
テニス	*河合 康典 小村良太郎 大和 裕也	佐野 陽之 團野 光晴	富山 正人 大橋 慶介

剣道	*山田 洋士 村田 一也	秦 明日香	佐々木香織
バレーボール	永井 隆之	*義岡 秀晃 *森田 健二	*服部 峰大 上町 俊幸
陸上競技	*岩竹 淳 南 雅樹	古崎 広志 恩村 定幸	小林 竜馬 西村 知修
バドミントン	長岡 健一 仲林 裕司 (小杉 優佳)	*高野 典礼 三吉 建尊	倉部 洋平 廣瀬 慈恩
水泳	*矢吹 明紀	長谷川雅人	小林 裕介
ワンダーフォーゲル	*團野 光晴	富山 正人	重松 宏明
ハンドボール	*東 亮一 稲積 泰宏	津田 誠	長谷川雅人

文化部

美術・デザイン	*服部 多恵		
写真	*義岡 秀晃		
吹奏楽	*船戸 慶輔	佐々木香織	
英語	*香本 直子 モナナチャルトンビル	西村 知修	鬼頭 美帆
建築研究	*内田 伸	道地 慶子	

電子情報研究	小村良太郎	*越野 亮	任田 崇吾
環境都市研究	*重松 宏明	高野 典礼	
茶道	*堀 純也		
ロボット研究	藤岡 潤 池田 生馬 矢吹 明紀	*嶋田 直樹	穴田 賢二 堀 純也

同好会

ダンス	*佐々木香織	軽音楽	*恩村 定幸	将棋	*越野 亮
-----	--------	-----	--------	----	-------

★は、第一顧問です

2025年度行事予定

4月

- 1-3 春季休業
- 4 入学式
- 7 前期授業開始、新入生オリエンテーション
- 16 定期健康診断
- 24 開校記念日

5月

- 1-6 閉寮
- 2 臨時休業日
- 9-10 1年生合宿研修
- 15 本科春季球技大会
- 17 寮生保護者懇談会
- 21 専攻科入学者選抜検査(推薦)
- 22-28 授業参観ウィーク

6月

- 5-8 高校総体
- 9-13 前期中間試験
- 22 専攻科入学者選抜検査(学力、社会人)
- 23 北陸地区高専体育大会壮行会
- 23 文化部発表会

7月

- 5-6 北陸地区高専体育大会
- 19-20 体験入学
- 27 こども石川高専

8月

- 4-8 前期末試験
- 8-9/20 閉寮
- 9-10 1～4年生保護者懇談会
- 12-9/19 夏季休業、4年生学外実習
- 23-9/21 全国高専体育大会

9月

- 24 コンテスト激励会
- 26 前期授業終了
- 29-30 臨時休業日
- 30-10/3 4年生海外研修※

10月

- 1 後期授業開始
- 2 2年生学外見学会
- 2-3 3年生合宿研修
- 2-12/2 専攻科1年生長期インターンシップ
- 5 全国高専ロボットコンテスト(東海・北陸地区大会)
- 6 高専体育大会報告会
- 11-12 全国高専プログラミングコンテスト本選
- 22 本科秋季球技大会

11月

- 1-2 紀友祭、オープンカレッジ
- 8-9 全国高専デザインコンペティション本選
- 14 企業技術説明会
- 16 全国高専ロボットコンテスト(全国大会)

12月

- 1-5 後期中間試験
- 23-1/5 閉寮
- 24-1/6 冬季休業

1月

- 17 本科入学者選抜検査(推薦)
- 24-25 全国高専英語プレゼンテーションコンテスト本選

2月

- 3-6 5年生学年末試験
- 8 本科入学者選抜検査(学力)
- 13-19 1～4年生学年末試験
- 20 臨時休業日
- 27 後期授業終了
- 27-3/1 閉寮

3月

- 2-18 臨時休業
- 中旬 入学準備会
- 19 卒業証書・修了証書授与式
- 23-31 学年末休業
- 24 教科書販売

※学科により日程が前後します

夏休み

こども石川高専

参加
無料

■ 日程: 2025年7月27日(日) ※時間は学習テーマによって異なります。

■ 会場: 石川工業高等専門学校(河北郡津幡町北中条タ1)

■ 募集対象: 小学校4年生～中学校3年生と保護者 229組

※小学生は保護者同伴必須です。

※中学生は保護者同伴がなくても参加可能です。

■ 参加費: 無料



こども石川高専は石川高専Webからお申込みいただけます。

URL <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/other/event/kodomo.html>

■ 問合せ先 石川工業高等専門学校 総務課 企画・地域連携係

TEL 076-288-8017 FAX 076-288-8014 E-mail kikaku@ishikawa-nct.ac.jp



[校章の由来]

「石川高専」であることを明確に打ち出したもの、というアピール性に眼目を置いて「高専」の文字を「石」と「川」で両側から円形に囲み、創造と協調の精神が生きたわかりやすいものにした。

(当時 金沢美大教授であった 故 板坂辰治先生のデザイン)

「創立60周年記念」募金へのご支援のお願い

平素より本校の教育及び研究推進・産学官連携活動に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、石川工業高等専門学校は昭和40年4月に創立されて以来、国内外で活躍する多彩な人材を輩出し続け、令和7年に創立60周年を迎えます。

このたび、創立60周年を迎えるにあたり、本校が創立以来築き上げてきた歴史を礎に、さらなる発展を目指し、その活動資金のご支援を募ることといたしました。

本校は、機械工学科、電気工学科、土木工学科（現環境都市工学科）の3つの学科で発足し、その後、産業界や社会の要請に応え、昭和45年に建築学科、昭和62年に電子情報工学科を設置し、現在の5学科体制となりました。平成12年には、より専門性を高めるための専攻科を設置。創立60周年を迎える令和7年度には、昨今の急速な社会変革、特にDXやカーボンニュートラルの推進、これらに即応すべく、電子情報工学科では高度な情報通信技術を基盤としたDX・情報系人材を、その他の学科では、専門知識とDX・

GXの融合能力を備えた人材の育成を目指し、新たに先進科学融合コースと情報科学融合コースを設置します。

本校は、「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」であることを基本理念として、基礎から応用へとつながる専門的な知識や技術をさらに社会実装へと進めることを目指した教育に努めてまいりました。卒業生・修了生は現在までに1万人を超え、産業界のみならず、教育界や国際社会からも高く評価されております。

創立60周年のスタートラインに立った今、本校は、すべての人が幸せを実感できるより良い社会づくりのため、グローバル、あるいはローカルなさまざまな社会課題の解決に貢献できる実践的な人材の育成をさらに推進してまいります。

皆様には、ますます発展する石川高専へのご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年3月

石川工業高等専門学校長 富田 大志



お申込みについてはこちらから

※「お申込みフォーム」、「寄附金申込書」の様式及び寄附のお手続きについての詳細は右のQRコードから、本校60周年記念事業募金特設サイトをご確認ください。



<https://www.ishikawa-nct.ac.jp/outline/60thkinen/donation.html>

編集後記

前号まで裏表紙に連載してきた「石川高専のたからもの」に代わり、今回は創立60周年記念事業についてご紹介させていただきました。このように石川高専も還暦を迎え、いよいよ深みを増しているところです。60周年の節目を目前に昨年は能登半島地震で甚大な被害を受けましたが、仮設体育館が完成し、テニスコートも一部改修されて利用が再開されています。学生たちの活気が戻り、日常が再構築されつつあることを実感しています。

今後も総合体育館の建設など、キャンパスの復興は着実に進んでいきます。本号の編集を通して、この困難を乗り越え、より魅力的な石川高専を築き上げていきたいという思いを新たにしました。引き続き、本校へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

編集：石川工業高等専門学校 広報委員会
発行：石川工業高等専門学校 総務課総務係

〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条夕1
[TEL]076-288-8000 [FAX]076-288-8014
[E-mail] s-somu@ishikawa-nct.ac.jp
[URL] <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/>